

## 平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人
------	----	-----	----	-----	----	-----

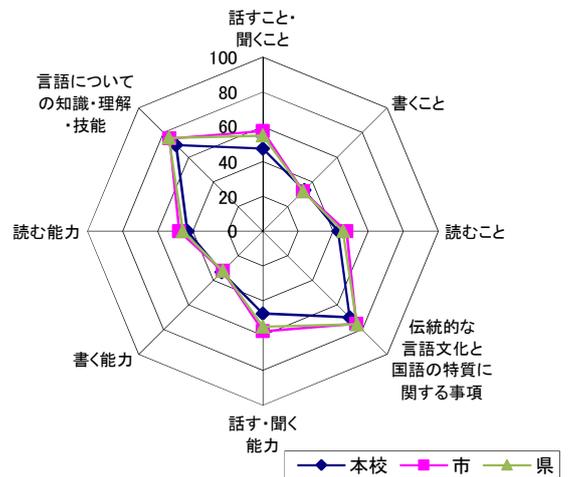
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立清原北小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	47.4	57.5	54.9
	書くこと	33.3	32.3	32.3
	読むこと	43.0	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	47.4	57.5	54.9
	書く能力	33.3	32.3	32.3
	読む能力	43.0	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	70.0	75.3	75.8



## ★指導の工夫と改善

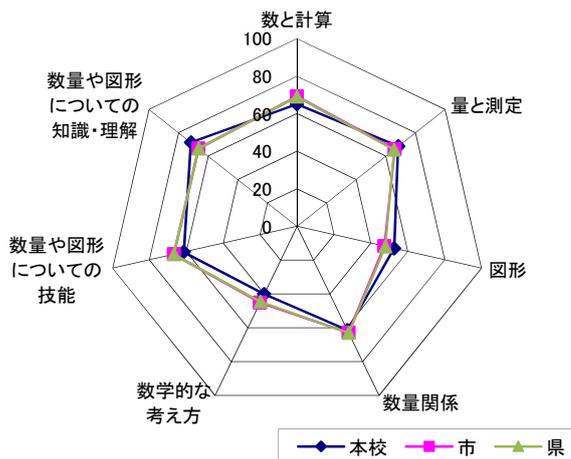
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○●聞き方・話し方の理解において、自分の意見を述べることはできるが、話題に沿って上手に進行したり、理由を入れながら筋道を立てて話し合うことのできない児童が多く、県や市の平均を下回っている。	・話し合いや発表の機会に、理由を付け加えながら話す場面を意識的に取り入れる。
書くこと	○●メモや会話文をもとに、報告レポートのまとめを書くことについては県や市の平均をやや上回っているが、メモや会話文に書かれていないことを書いてしまう誤答が目立つ。また、無回答も36ポイントと高くなっている。	・資料をもとにして根拠を述べながら文を書くことができるよう、各教科や総合的な学習の時間に学校図書館を利用して調べ学習を行う。 ・各教科で自分の考えを文で書くことを習慣化し、書くことに対する苦手意識を軽減する。
読むこと	○物語文において、叙述をもとに登場人物の気持ちを想像して読むことができる児童は多い。 ●説明文において、各段落で書かれている内容の読み取りが不十分で、段落相互の関係を捉えて読むことができない児童が多い。 ●書き抜く問題では、問題の答えにあたる部分を探すことはできるものの、自分の言葉で書き換えてしまう誤答が多い。	・問題に対して求められた答え方ができるよう、読み取り方について一斉指導を行う。 ・説明文では、各段落の内容を読み取る際に、見出しを考え、段落ごとのつながりを考える時間を設定する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○●普段児童が使う機会の多い漢字の読み書きについては県や市の平均をやや上回っているが、あまり馴染みのない漢字の読み書きは県や市の平均を5ポイント以上下回っている。 ●基礎問題における国語辞典の使い方の正答率が県平均を大きく下回っている。	・宿題やモジュールの時間を活用して漢字練習や漢字テストを行い漢字の定着を図るとともに、新出漢字や意味調べに積極的に国語辞典を活用し、家庭学習にも辞書引きを取り入れることで辞書の使い方の理解と語彙力の向上を図る。

# 宇都宮市立清原北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.1	69.2	69.1
	量と測定	68.4	66.1	65.6
	図形	52.6	47.4	48.0
	数量関係	61.4	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	40.0	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	61.4	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	71.7	66.6	66.5



## ★指導の工夫と改善

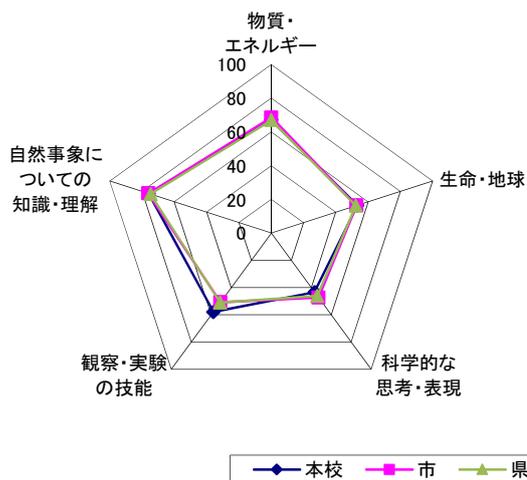
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○●単純なあまりのあるわり算の計算は正答率100%である一方、あまりのあるわり算の答えの確かめの式やあまりの処理の理由を大切な言葉を落とさずに説明することができない児童が多い。また、単純な四則でも繰り上がりや繰り下がり、位の間違いいなどのミスも多くみられる。</p>	<p>・基礎的な問題に繰り返し取り組みませ、計算の速さと正確さの向上を図る。 ・課題の場면을正しく理解できるように、図や数直線、半具体物等を活用した授業実践をする。</p>
量と測定	<p>○分と秒で表された時間を秒の単位に換算したり、はかりに示された重さを正しく読んだりする技能の身に付いている児童が多く、県・市の平均正答率より10ポイント以上高い。 ●時刻を逆算して、間に合う一番遅い電車の発車時刻を時刻表から見つける問題では正答率が県や市の平均正答率を約15ポイント下回っている。</p>	<p>・学校生活の中で、残り時間を意識したり、計画を立てて活動に取り組んだりする場면을意図的に設定することで、時間の感覚をもたせる。 ・長さ、時間、重さなどの単元では、具体物を授業に取り入れ、実生活と結びつけて量的な感覚を高める。</p>
図形	<p>○円と球、三角形に関する基本的な知識は身に付いており、直径を作図したり、絵を見て半径を求めたりする問題の正答率は県や市より高い。 ●図を見て三角形の種類が分かるものの、その三角形である具体的な根拠を十分に説明することができず、誤答になっている児童がとても多い。</p>	<p>・TTで指導する良さを生かし、机間指導やノート指導を充実させて必要なことを落とさずに説明する力の育成を図る。</p>
数量関係	<p>○棒グラフの目盛りの大きさを読み取ったりグラフからわかる内容を選んだりすることができ、グラフを読み取る基礎的な力はある。 ●問題に合う口を使った線分図を選ぶことについて課題が見られる。</p>	<p>・問題を読んで自分で線分図を書いたり、口を使った式を立てたりする場면을多く取り入れ、線分図のよさに気付かせる。</p>

# 宇都宮市立清原北小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.1	68.6	66.9
	生命・地球	53.3	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	43.4	47.4	46.2
	観察・実験の技能	57.9	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	75.9	76.1	74.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○実験して実際に体験したことはよく身についている。</p> <p>○磁石の性質についてよく理解できている。特に同極と異極のはたらきについては、県の平均正答率を5ポイント以上超えている。</p> <p>●電気の通り道では、回路を作る際の導線の安全なつなぎ方について理解できていない児童が多い。</p> <p>●ゴムの伸びや風の強さと車の走る距離の関係は理解できているものの、資料の読み取りが不十分で、ゴムの伸びと車の走る距離の設問で正解を選択することができない児童が多い。</p>	<p>・実験結果を表やグラフなどを使ってまとめ、思考の流れが捉えやすいように構造的な板書を行うことで、知識・理解の定着と資料を適切に読み取る力を養う。</p> <p>・実験観察後の考察の時間を十分に取り、自分の言葉でノートにまとめる活動を重視する。その際、必要な言葉を示したり、穴埋め式にしたりするなど、それぞれの児童に合った支援を行う。</p>
生命・地球	<p>○虫眼鏡の使い方や方位磁針の操作方法についてはよく理解しており、虫眼鏡は県や市の平均正答率を35ポイント以上、方位磁針は8ポイント以上高い結果となっている。</p> <p>●時間内に最後の問題まで回答できない児童が見られ、記述式の設問や大問9、10の無回答率が特に高くなっている。</p>	

## 宇都宮市立清原北小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」児童が、県・市の肯定回答割合より10ポイント以上高い。自主学習を奨励している成果が表れている。今後も自主学習のやり方の例を広めることで、自分の課題に沿った計画を立て、実践できる児童の育成に努めたい。

○「学習は将来のために大切だと思う」の肯定回答が国語・算数・社会・理科・総合すべてにおいて100%であった。また、学習意欲に関する質問では、ほとんどの項目で肯定回答が高い。今後も単元の導入を工夫するなど、児童の学習への関心を高められる授業を展開する。

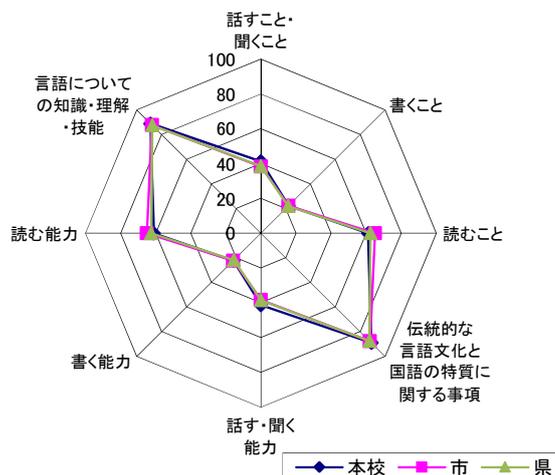
●「難しい問題に出あうとやる気が出る」「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定割合が県・市よりも低かった。不思議なことや分からないことについて調べ、自分で解決する楽しさを感じられる授業の工夫を行いたい。

●「国語の問題を解く時間は十分でしたか」の肯定回答が6割弱であり、県や市の平均と比較しても10ポイント以上低い。解答するには読むスピードが必要になってくるが、「1か月に何冊くらい本を読みますか」の質問には3分の1が2冊以下と答えており、読書量の少なさが目立つ。各教科での学校図書館との連携、図書委員会によるイベントへの参加、保護者への啓発を通して読書量と読書の質を高め、読み取る力を伸ばしたい。

# 宇都宮市立清原北小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	41.3	38.3	38.5
	書くこと	22.2	22.3	21.9
	読むこと	61.1	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	89.0	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	41.3	38.3	38.5
	書く能力	22.2	22.3	21.9
	読む能力	61.1	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	89.0	87.8	87.5



## ★指導の工夫と改善

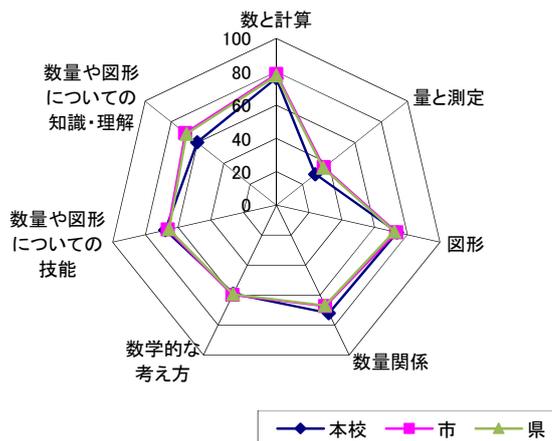
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市・県の平均に比べてやや高い。</p> <p>○考えの共通点や相違点を理解しながら聞くことができている。</p> <p>●話し合いにおいて司会者の役割を理解して進行することが苦手な児童が見られる。</p>	<p>・学級会などの話し合い活動を通して、提案者や司会者の役割を確認するとともに、引き続き理由を挙げながら意見を述べたり話の中心に注意して聞いたりするよう指導する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均に比べてやや低い。</p> <p>○必要な情報を読み取り、メモの内容に新しい情報を加え、リーフレットに言葉を入れることができている。</p> <p>●メモや友達の意見をもとに、リーフレットのまとめを書くことが苦手な児童がいる。</p> <p>●書こうとすることの中心を明確にして書くことが苦手な児童が見られる。</p>	<p>・まとめを書くことに抵抗を感じている児童が多い。意図的に筆者の考えを短い文でまとめたり感想をまとめて書いたりする機会を設けることにより書くことへの抵抗感を減らしていく。</p> <p>・国語科だけでなく、他教科において新聞づくり等を通して実践的な力を身に付けさせる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市・県の平均に比べてやや低い。</p> <p>○目的に応じて中心となる語を捉えて読んだり叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読んだりすることができている。</p> <p>●文章の要点や細かい点に気を付けて読むことが苦手な児童が見られる。</p>	<p>・読み取りに関しては、昨年に比べてはできていた。今後も引き続き、登場人物の気持ちを理解させながら内容を読み取らせていきたい。</p> <p>・おおまかな文章は理解できているが、一つ一つの言葉が示している内容に気付けなかったり把握できなかったりする児童がいるので、授業の中で確認しながら読み取る習慣をつけさせたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市・県と比べてやや高い。</p> <p>○漢字の読みや漢字辞典の使い方について理解することができている。</p> <p>●漢字の書き取りや慣用句の使い方の理解が十分でない児童が多い。</p>	<p>・学年の漢字だけでなく、既習学年の漢字についても復習する機会を設けていく。また、国語科の授業を中心に慣用句についても取り上げ、スパイラル的に指導し定着を図る。</p>

# 宇都宮市立清原北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.2	78.6	77.7
	量と測定	29.8	36.3	35.7
	図形	73.8	73.3	72.1
	数量関係	72.0	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	59.0	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	67.9	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	60.3	69.4	68.5



## ★指導の工夫と改善

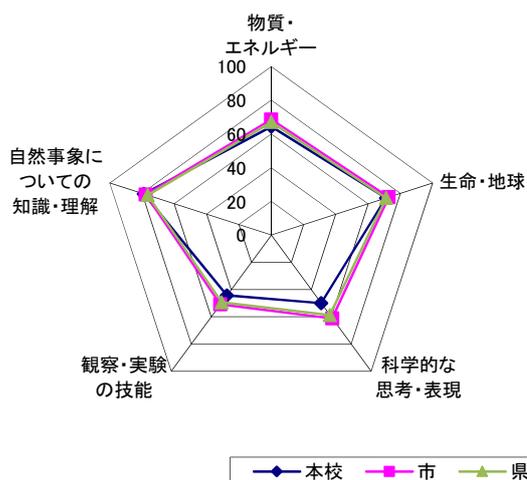
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県に比べるとやや低い。</p> <p>○整数や小数のかけ算のついて理解している児童が多い。</p> <p>●小数のわり算や四捨五入が苦手な児童が多くみられる。</p>	<p>・既習事項の復習をしてから授業を行ったり、小数のわり算や四捨五入に関する問題の時は特に時間をかけて丁寧に指導していく。</p> <p>・小数点の移動や指示の見落としも見られるので、引き続き慎重に計算したり見直しをしたりする習慣を身に付けさせたい。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市・県に比べると低い。</p> <p>○面のおよその面積を推測することができる児童が多い。</p> <p>●1㎡の大きさの概念や式に合った複合図形の面積の求め方に苦手を感じている児童が多い。</p>	<p>・既習の長さの単位を元にして、面積や体積の単位と相関関係を体験的な活動を取り入れて確認する。</p>
図形	<p>平均正答率は、市・県に比べるとやや高い。</p> <p>○与えられた2辺の続きを書いて、平行四辺形を作図することができる児童が多い。</p> <p>●立体の展開図から、ある面と平行な辺を選ぶ問いがやや正答率が低かった。</p>	<p>・いろいろな三角形や四角形の性質を再確認するとともに、体験的な学習を通して、立体についての概念を習得させる。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市・県に比べると高い。</p> <p>○二次元表の欄にあてはまる数を求めることができる。</p> <p>○規則性を理解し、式に表すことができる児童が多い。</p> <p>●買い物の場面で、1つの式に表した考え方を説明することが苦手な児童が多い。</p>	<p>・引き続き、自分の考えを式で表す活動を大切にしながら、指導していく。</p> <p>・自分の式だけでなく、友達の式についても説明できるよう学習形態を工夫し、互いに説明したり質問したりして、より深い理解を促したい。</p>

# 宇都宮市立清原北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.3	68.6	67.0
	生命・地球	71.1	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	50.0	61.2	58.8
	観察・実験の技能	44.4	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	78.8	77.7	76.6



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市・県と比べるとやや低い。</p> <p>○湯気と水中から出てくる泡の正体や水から氷になるときの体積変化について理解している児童が多い。</p> <p>●金属が温められるとどうなるか、金属の温まり方など金属の性質について理解していない児童が多い。</p>	<p>・授業の中で、もののあたたまり方について、既習事項を整理し確認する。</p> <p>・実験の結果だけでなく、なぜそうなるかなど科学的に思考する力が弱い。引き続き実験に際し、結果を予想したり、実験後に結果をもとに考察したりする時間を設ける。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市と比べるとやや低い。</p> <p>○太陽の動きや月の動きについて理解することができている。太陽の動きについては、県や市の正答率を大きく上回っている。</p> <p>●光電池についての理解や方位磁針の適切な操作方法ができていない児童が見られる。</p>	<p>・さまざまな実験・観察において、操作や体験を通して基礎的な知識を身に付けたり、練習問題などで定着を図ったりする。</p>

## 宇都宮市立清原北小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○読書に関して肯定的な回答が多い。平日の読書量についても非常に高く、ひと月の読書量についても、未読児童はいない。

○学習の目標とまとめを書いたり、授業において学習したことを振り返る活動をよく行ったりしている。今後も、児童が本時で学んだことなどを振り返って書く活動を計画的に行い、考えの変容などを自覚できるように指導を工夫していく。

●本やインターネットを活用して学習している項目についての肯定率は低い。インターネットの活用が十分でない。授業において、図書館司書と連携を図り、図書資料を探したり、本やインターネットから得た知識を活用したりする機会を設ける。

●学習に対する意欲は大変高いが、自信をもつというところまでには至っていない。授業の中で積極的に自力解決の場を設定し、最初に見通しを立てたりスモールステップで課題に取り組んだりすることで、意欲を喚起し達成感を味わえるようにしていく。また、担任を中心に放課後の学習相談タイムを活用し、個別指導の機会を作る。また、かがやき指導員と連携を図り学習に対する自信をもたせる。

## 宇都宮市立清原北小学校（第4・5学年共通）

### 学力向上に向けた学校全体での取組

#### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本を大切に、他教科や自身の生活体験と結び付けて課題を解決させること。	・日々の授業を大切に、教科書や業者テストの問題に丁寧に取り組ませたり、間違えた問題を直したりする。	・全体的に基礎・基本の定着がみられる。 ・算数科において生活体験と結びつけて考えることができた。

#### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・記述式の問題の無回答が多い。複数の資料をもとに自分の考えを書くことが苦手な傾向にある。 ・既習事項や前年度の学習を忘れてしまっている。	・要点をまとめる活動 ・スパイラルによる学習	・中学年から要旨をまとめるなどの活用を意識して取り入れたり、時数制限や短い言葉で要点をまとめるなどの機会を作っていく。 ・単元によって習熟度学習を取り入れる。レディネステストにおいて定着が十分でないときは、前学年の復習を行う。